29P-0954

アンケートと唾液中ストレスマーカーによる鍼灸整骨施術効果定量化の試み

池田　智絵[1], ◯松野　純男[2], 渡邉　一臣[3], 中村　良平[3], 笹野　晋[4], 近藤　治[5], 池本　明弘[6], 高松　花絵[2], 大星　直樹[7], 岸本　和也[7], 八木　秀樹[2], 松山　賢治[2], 萩中　淳[1]（[1]武庫川女大薬, [2]近畿大薬, [3]甲九鍼灸院, [4]ほくと鍼灸整骨院, [5]近藤整骨院, [6]池本整骨院, [7]近畿大理工•情報）

【目的】我々はこれまでに、鍼灸施術の効果をアンケート調査と唾液ストレスマーカーの一つであるアミラーゼを用いて解析し、アミラーゼ活性と身体改善度が相関することを示した。また、相関性の高い群は頸肩腕症候群などの鍼灸施術反応性の疾患が多いことを報告した（第 40 回日本ペインクリニック学会関西地方会）。今回、複数の施設で追加調査を行った結果を加えて詳細な解析を行うとともに、施術効果の高い群と低い群から数人ずつを抽出した３ヶ月の追跡調査を行った。

【方法】大阪府下の複数の鍼灸整骨院に依頼し、施術を行った患者に対して、甲九鍼灸院での調査と同一の痛みや気分に関するアンケート調査と、施術前後での唾液アミラーゼ活性を測定した。追跡調査においては身体改善度の変化を visual analog scale (VAS) によって調査し、同時に唾液中ストレスマーカーとしてアミラーゼ，cortisol, 分泌型 IgA (sIgA) およびレプチン受容体 (OBRb) の変化を調べた。アンケート結果については、因子分析により共通因子の抽出を行った。さらに、それらの因子とストレスマーカーとの関係を重回帰分析で解析した。

【結果・考察】新たに追加した 3 施設では、患者のほとんどが施術反応性の高いと考えられるアミラーゼ活性の高い群に含まれていた。また、アンケートの分析から抽出された因子とアミラーゼ活性を比較すると、70 歳未満の患者において施術前アミラーゼ活性と身体および精神的ストレスに相関を認めた。

追跡調査では、3 ヶ月の継続治療中に sIgA の減少と cortisol の上昇を認めた。他方アミラーゼは、施術直後には減少するが長期的な変動は認められず、長期的な治療効果の判定には cortisol や sIgA が適していると示唆された。さらに VAS および OBRb の変動を解析し、これらを用いた施術効果の定量化を検討中である。